UEFA チャンピオンズリーグにおけるサイドバックの攻撃

大矢　真太朗（競技スポーツ学科　コーチングコース）

指導教員：山田　庸

キーワード：ポジショニング，ラストパス，状況判断

1.　緒言

現代サッカーは,守備陣形が非常にコンパクトになり守備的選手がゴール前に密集していることが多い．しかし，サイドには時間とスペースが出来るため,サイド攻撃が非常に重視されてきている．

サイドバックが,オーバーラップしゴール前にクロスを上げるだけではなく,カットバックやインサイド･サイドバックという戦術が有効に使われている．元イングランド代表のサイドバックであるギャリー・ネビル（2015）によると,「ここ 20 年でサイドバックの役割の変化は,最も大きな戦術的変化のひとつと言える」と述べている．

近年のゲームパフォーマンス分析研究では,特にサイドからのクロスの重要性が検証されている（Yamada and Hayashi，2014）．しかし，サイドバックを対象にクロス以外のパスを含んだアシスト及び決定機創出のパターンについて量的データに基づく客観的に研究した報告は見られていない．

本研究では，欧州サッカー連盟(以下，UEFA)チャンピオンズリーグでのサイドバックの攻撃参加を検証すること目的と設定した．

2.　方法

サイドバックの攻撃参加の種別を記録した．UEFA チャンピオンズリーグ 2014-2015 の準決勝 4 試合と決勝 1 試合の計 5 試合を対象としサイドバックの攻撃参加全 155 プレーを調査対象とした．大会公式映像を観察し，各プレーを種別ごとに回数を記録し集計した．

3.　結果

攻撃参加では，オーバーラップが 78 回と 1 番多く，次にインサイド・サイドバックが 39 回と 2 番目に多かった．

4.　結論

① 攻撃参加は攻撃に厚みをもたらし，試合の勝敗に影響を及ぼす．

② 攻撃参加には，オーバーラップが多い．

③ インサイド・サイドバックでゲームメイクに参加する役割がある．

引用・参考文献

朝日新聞（2015）進化するサイドバック．http://www.asahi.com/and_M/interest/SDI2015031394431.html(参照日 2015/12/15)

相馬直樹（2005）サイドバックを知る．サッカークリニック,11：4-6.

Yamada, H. and Hayashi, Y. (2014) Characteristics of goal-scoring crosses in international soccer tournaments. Football Science, 12:24-32.

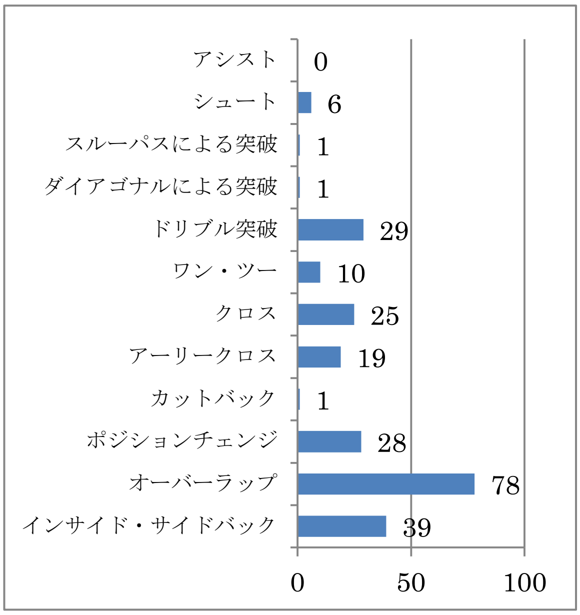

図 1　全 5 試合の攻撃参加(N=235)